

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「あなたらしさ」を尊重し、希望のある暮らしを支えるサービスとして事業所独自の理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、棟内に理念を掲示し、朝のミーティング時の唱和と日常的に話題にする事により、理念を共有し、実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレット、入所案内時の説明文書に明示する他、利用者や家族に分かりやすい言葉で説明し、玄関、棟内に大きく掲示することで理解してもらえるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地元の人々と、日常的に交流が図れるように働きかけている。 日頃から声を掛け合うことにより、運動会の参加や、畑づくりの指導の協力を得ている。	事業所の呼び掛けにより、毎週土曜日地域商店の出張販売が実現され交流の場となっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活動方法等、毎月定例会や勉強会の場で話し合いする事により、運営者、管理者、全職員が周知できている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、和やかな雰囲気づくりに努めている。包括支援センター、行政、同業職の方たちからアドバイスをもらいながら、自由に発言できる場となり、サービス向上につながっている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で、積極的に意見交換している。事故があった場合でもすみやかに連携し、アドバイスをもらっている。	困難事例等、行政と連携し取り組んでいる。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、制度については、勉強会を通して理解している。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定例会等、機会を設け資料を回覧し学んでいる日常的に話題に出し、互いの行動や言動を話し合う事で、虐待防止に努めている。特に、言葉使いに気をつけている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、利用者や家族から不安や疑問について、相談を受け付け、懇切、丁寧に対応し、十分な理解を得た上で同意して頂いている。	事業所独自の同意書を作成している。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日常的に意識的に会話する機会多く設け、出された意見や苦情には事業所全体ですみやかに対応し、質の高いサービス提供に活かしている。	推進会議では利用者に参加して頂き、意見を発表している。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	受診については家族に受診前、受診後に必ず連絡をとり健康状態について常に把握して頂くようにしている。暮らしぶりについては口頭での他、毎月メッセージを送付している。金銭管理は出納長に記録し、領収書を添付し報告している。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動があった場合は広報で報告している ・行事の際には写真を撮り送付している。 ・検診車を利用し、健康管理している。 ・家族へ報告している
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内、外の苦情受付窓口について、契約時に十分に説明している。施設内に明示している。これまでに苦情は出ていないが意見や要望に関しては運営に反映できるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との日頃からの会話を大切にし・良い信頼関係づくりに努めている。 ・各棟入口に投書箱を設置している。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会、勉強会で意見交換うを行なっている。必要があれば、都度話し合いの場を設け、意見や提案を運営に反映している。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に合わせた人員の確保、時間の調整は必要に応じ都度行なっている。又、職員も理解してくれ、協力的である。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や配置換えの際には詳細な引継ぎを行なえる期間を十分に設ける等し、利用者へのダメージを防ぐ努力をしている		職員は日常的に配置されている部署以外の利用者とも、積極的にコミュニケーションを図り。馴染みの関係となっている。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じた研修を受講している他、介護用の文献、ビデオ、専門書等を設置し、誰もが活用できるようにしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・研修レポートを作成し定例会や月一回の勉強会で全職員が周知できるように取り組んでいる。 ・ケアマネジャーが、日常的に業務について助言、指導する体制をとっている。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議やグループホーム協会等の研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に運営者、管理者が職員の悩みを聞く体制をとっている。又、親睦会等により、話し易い場を設けている。職員の意見を反映した休憩時間、場所を提供している。		空気清浄器を設置して喫煙者用の休憩室を設けている。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営者は、管理者、職員と話す機会を作り、個々の状況を把握するように努めている。 ・健康診断を毎年実施している。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があれば、すぐ利用者、家族との面談を行っている。面会時には身体状態はもちろんだが、まずは相手の話に傾聴する事で、希望やニーズの把握に努めている。それにより信頼関係を築いている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴する事により、何を必要としているのかを見極め、すばやい対応を心掛けている。困難な件であっても関係機関との連携を図りながら取り組んでいる。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の生活ペースに合わせたサービスになるよう、双方の意向をもとに、十分に話し合い、納得して頂いた上で、利用開始している。家族には、その都度相談している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の心に寄り添うことで喜怒哀楽を共感し理解するよう努めている。個々の得意とする事を見出し、発揮する場面を作ることにより、支え合う関係を築いている。	野菜の育て方、裁縫、料理、お茶、お花を利用者から教えて頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族は、日頃から情報交換を行い、共に悩み考えながら利用者を支える取り組みをしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	双方の事情や思いについては、十分な聞き取りを行い、理解に努めている。利用者と家族の絆を大切にすることを心掛け、日常の様子を電話でこまめに伝えている。		<ul style="list-style-type: none"> ・受診やお墓参り等、施設外で面会する事により、家族と利用者が自然に笑い合えるような取り組みを行なっている。 ・毎月メッセージを送付している。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人や場所についての把握に努め、交流が継続できるよう支援している。		<ul style="list-style-type: none"> ・墓参りの援助 ・年賀状
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールのテーブル席は仲の良い利用者を隣同士にするなどし、共に助け合いながら暮らしていけるよう声掛けし促している。		個々に合わせた役割を持つことにより、助け合いながら、より良い関係作りに取り組んでいる。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて相談に乗り関係を継続できるよう努めている。		入院により、契約終了となった場合であっても、家族と連絡を取りあい、悩みや相談を受け付け、助言等行なっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が、自分の希望や意向を十分に伝える事ができない場合でも、家族の協力を得ながら、アセスメント、カンファレンスを繰り返し、本人本意の暮らしができるように努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のプライバシーに配慮しながら家族、親類、友人から情報収集し把握に努め「その人らしい暮らし」に活かしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりをよく観察し、一日の状態を生活記録に詳しく記録し、把握している。コミュニケーションを通し、できることわかる力を把握している。	
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画時は利用者、家族の意向を反映したものとしている。 全職員、ケアマネジャーと十分に話し合い自立支援に向け、無理のないように作成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスは月一回（変化があったときは随時）行なっている。 ・医学的な助言を看護師から受けている。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画実施期間は計画書②に明示しており、本人・家族に説明し納得して上で署名・捺印を頂いている。 ・職員は気付きを大切に、利用者の状態変化にすばやく反応し、必要に応じては家族の協力を得ながら、介護計画の見直しのたびに再アセスメントを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画は3ヶ月たびに見直ししている。（変化があった場合は随時） ・家族には、面会時、または電話にて希望等伺っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・生活記録に日々の様子、状態変化、ケアの実践を具体的に記録している。 ・カンファレンスシートに、ケアの実践の結果、職員の気づき等記録し、介護計画の見直しに活かしている。		・カンファレンス、申し送りノートにて全職員が情報を共有している。
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族のニーズに応じて、受診、外出の移送支援を柔軟に対応している。		冠婚葬祭の付き添い支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方のボランティア、消防団の協力を得ている。		・姉妹都市である、沖縄県なかさと村の郷土芸能が、地元で開催され見学した。 ・地域のボランティア、消防団の連絡先を緊急連絡簿に載せている。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じては、他サービス利用の支援を行っていくが、現在利用希望はない。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例である場合には、必要に応じて包括支援センターに相談し、協力体制をとっているが、現在、成年後見制度の利用はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受領状況は把握しており、利用者、家族が希望する医療機関へ受診できている。 又、地域にある医療機関へ、気軽に相談できている。		家族には、受診日をお知らせしている。受診結果はすぐ報告し、共有を図っている。希望があれば、家族にも受診に同行し利用者の健康状態を常に把握できるようにしている。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、西北中央病院（精神科）布施病院の専門医を受診し、一人ひとりに助言を頂いている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制加算により、看護師が日常的に健康管理を行なう体制となっている。		4名の看護師がおりいつでも相談できている。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・病院関係者（担当看護師）との情報交換により、家族とも話し合い、早期退院にむけて協力体制をとっている。 ・退院後の支援体制もあり。		・場合によっては、長期入院後の入居受け入をしている。
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の方針については、家族が受診に同行し、かかりつけ医から予測されるリスクについて説明を受け、納得、理解頂いた上で、どのようにしていくかを決めている。さらに、同意書を作成し、対応に備えている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・急変した場合の受け入れについて、医療機関と話し合いをしている。 ・本人、家族が納得した最期を迎えられるように支援している。		・急変時の受け入れについて、医療機関と連携をとっている。 ・夜間対応マニュアルを作成し、勉強会で全職員が周知徹底している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間、家族の情報をもとに、情報提供書（介護サマリー）を作成し、プライバシーに配慮しながら詳細に移行先への情報提供をしている。 ・退居後も情報交換を行っている。 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いには十分注意し業務している。 ・本人、家族が望む、その人らしさを尊重して暮らしている。 		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・外食や出前でのメニューを本人が選ぶ場面作りをしている。 ・カンファレンス参加して頂き、本人が納得できるプランを作成している。 		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間、一日の過ごし方は、その日の本人の精神状態に合わせて希望に添って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好みで衣服を選んでおり、スカーフを巻いたりとおしゃれができるよう支援している。又、理、美容店に連絡、調整し、施設に出張に来てくれる。カットする際は一人ひとりの好みに合わせ注文しながら行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人、家族より、施行調査を実施し献立に活かしている。毎食の準備、後片付けは、一人ひとりの力量に応じて、分担し行っている。		・利用者が収穫した野菜で、自ら漬物を作り楽しまれている。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の状況に合わせて支援している。自己管理できる方は、居室に冷蔵庫を置くなどしている。おやつは自分で選ぶ場面作りをしている。		現在、お酒、タバコを希望する方はいないが、今後希望があれば対応します。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導する事で失敗を減らしている。体調不良など状態に変化が合った場合には、その都度見直しを行っている。		現在オムツ使用者はなし。必要に応じてリハビリパンツ、尿取りパットを使用し、トイレ誘導する事で自立支援に努めている。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天然の温泉であることから、皆さん入浴を楽しみにしている。仲の良い利用者同士で入浴できるよう調整している。		・希望があれば毎日でも入浴可能である。 ・職員の声の掛け合いを徹底し、入浴中の事故防止に努めている。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝の習慣等、本人の生活リズムを大切にしながら、日中の活動時間を確保し、夜の安眠を支援している。		・眠剤は使用しない方針だが必要に応じては専門医と相談しながら調整し服用している。現在は1名のみ服用。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	夕食準備、後片付け、洗濯たたみ等、利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促す働きかけを行っている。		・畑の草取り ・野菜の収穫など

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方は、少ない金額であるが、本人が管理している。(5名)又、自己管理できない方も、買い物の時にはお金を渡し、支払いする。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・希望に応じてショッピングをしている。 ・ドライブや散歩の外出を、こちらから働きかけ、機会を多く作っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・事情により家族が連れて行けない場合でも、職員が付き添い墓参りしている。 ・浅虫水族館までの長距離の遠足を実現できた。		・車酔いする方には、酔い止め薬服用して頂き、楽しく外出できるよう配慮している。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・プライバシーに配慮しながら、利用者が電話を利用しやすい雰囲気作りをしている。 ・家族や友人に、年賀状を送っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時は居室でゆっくり気兼ねなく過ごしていただけるよう声掛けしている。 ・帰りの際は、利用者と一緒に玄関で見送りしている。		希望に応じて家族室を提供している。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加や、定例会で、身体拘束について学び理解し、身体拘束のないケアを実施しているが、やむを得ず行動を制限する場合には、家族に十分説明し、同意書を交わしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、自由に入出りができるよう施錠していない。本人の希望により付き添い外出している。無断外出があった場合には当施設の役割を行事の参加を通して地域の人達に理解して頂き協力を得ている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中は、暖簾を使用し、プライバシーに配慮しながら、居室のドアを開けている。 ・夜間は一時間毎、必要に応じては都度巡回し安全に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・薬を自己管理できる方は、ほとんどいない為、職員が保管している。自己管理している場合は、残量と服薬時間を把握している。 ・ナイフは預り、錠をして保管している。		個々の状態に合わせてではあるが、自宅から持ってきた馴染みのある物は、手元に置き、安心して過ごせる様に支援しています。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハット、事故報告書を作成し、定例会や勉強会で再発防止に向けた話し合いを行っている。 ・報告書は常時確認ができるように、詰め所の棚に保管している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時対応マニュアルや、夜間連絡網を作成しており、全職員が周知している。 ・運営者、管理者、職員が普通救命講習Ⅱを受講している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練も実施している。(夜間想定あり) ・地域住民の協力員の登録があり、協力を得ている。		月1回、夜間連絡網の訓練を実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・カンファレンスでの他、日常的に職員間で話題に出し、一人ひとりのリスクや対応策を話し合っている。 ・家族へ報告、説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・職員は利用者の状態をよく観察しており小さな変化も見逃さず、すぐ看護師に報告する事で、早期に対応できている。 ・すみやかに専門医を受診している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の生活記録ファイルに、薬の説明書をはさんであり、職員がいつでも確認できるようにしている。薬の変更時は申し送りノート、受診ノートに詳しく記録し、口頭で申し送りをし周知徹底している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排泄チェック表に記録し把握している。 ・便秘も方には、朝食前にヤクルト、牛乳を飲むなど自然排便を促している。必要に応じてはかかりつけ医に相談し、本人の苦痛とならないように下剤調整し服用している。		おやつで食物繊維の多い物を提供している。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、義歯洗浄、塩水でのうがいを行なっている。夕食後のみポリデントに浸し汚れ、臭いの原因となるものを除去し清潔を保持している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立作りをし、個々の食事、水分の摂取量を記録に残し栄養状態の把握に努めている。栄養士に相談できる体制になっており、助言を求めている。		食事だけで必要摂取カロリーが確保できない利用者には、栄養補助食品で補っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染症対応マニュアルが整備されており、見える場所に張り出されている。 ・最新情報は、その都度、口頭や資料回覧にて共有を図っている。		・毎年全職員と利用者は（家族同意のもと）インフルエンザの予防接種を受けている。 ・手指消毒剤を使用している。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	おしぼり、フキン、まな板を毎回漂白除菌している。冷蔵庫内は毎日チェックし新鮮な食材を使用している。		・台所に立つ際は、エプロンを替え衛生面に配慮している。 ・冷蔵庫、水まわりの消毒は週に1回行い、確認表でチェックしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の周りには季節の花が植えられており、楽しんで頂けるよう工夫している。玄関内は広々として明るく開放感があり安心して出入りできるようになっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用しているホール内は季節ごとに装飾を変え、季節感が味わえるように工夫している。		・季節ごとにテーブルの配置を替えている。（暖房や日差し） ・中庭に季節ごとの花を植え観賞している。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファやテーブルの配置を工夫し団らんでできるスペースや、一人になれるスペースを確保している。 ・状況に応じて話し合い、より良い空間作りを心掛けている。		個人に合わせたイスを提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が馴染とした家具・寝具を置く スペースがありその人らしさを大切に空間作 りを支援している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・ホール内に、温、湿度計を設置し、毎日チェッ ク管理を行なっている。 ・料理、掃除、排泄後は都度換気している。		・水カーテン ・加湿器（加湿） ・光触媒（消臭）
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・施設内はバリアフリーとなっており、ホール内 廊下には手すりが設置してある。 ・身体状況の変化に応じて都度、手すりを追加し たり、トイレのドアを外しカーテンにする工夫を している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱や失敗がある場合には、原因を話し合い、改 善に向けて、すばやく対応し、混乱を長引かせな いようにしている。		対策として、居室前に、本人の似顔絵や写真、表 札を置く工夫をしている。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	庭には「あずまや」があり、多くの花や木を眺め ながらお茶を飲み、ゆっくりとした時間が過 ごせる様になっている。畑もあり、植え付けから、収 穫までを楽しんでいる。		庭に遊歩道があり車椅子でも安全に楽しめるよ うになっている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・当グループホームでは担当者制により、職員は担当の利用者さんと信頼関係を築くことができ、家族と利用者さんとの関係をスムーズに結ぶパイプ役となり、より安心して暮らして頂けるよう支援しています。
- ・一人ひとりの生活リズムと個性を大切にされた個別ケアの実践に取り組んでいます。